

期末テストに思う

「先生のテスト、難しすぎるよ。時間が足りなかった!」
「おかしいなあ。授業でやったことしか出していないはずだし、時間は皆同じだけ与えられているはずだけだなあ。」

国語の授業を受けもっていた時、私の作った期末テストを終えた生徒とこんな会話をしていたことを思い出します。多くの生徒が「難しかった」「時間が足りなかった」と嘆く中、A子は違いました。「先生が作るテストは対策がしやすいです。授業でやったことばかりなので、ノートを見て先生が◎を付けてくれたところとか、授業のねらいに関係する先生のコメントを読んでおくと、先生はここを出すのでは」と思えてきます。」

確かにその通りでした。一時間一時間の授業にはねらいがありますので、そのねらいを達成できているかどうかが評価の窓になります。期末テストは実力テストと違い、学習の達成度を測るテストですので、その授業で学んだ中身が大切です。

「先生が時々ワークから出題するときは、(選択肢の)順番を替えたり、(選択肢の)内容を違う言葉に置き換えたりしているからどうしてそれが答えになるか完璧にわかっていないといけない。」

A子は私の出題の仕方を心得ていました。ワークの中には授業で学んだことと大きくかわる問題が当然あります。その問題を出す時に、私はいじわる(?)をしていました。彼女の言う通り、選択肢の順番を替えるのは当たり前。選択肢の表現を変えたり、時には選択して答える問題を記述で答えさせたりしていました。ワークを一通りやって答え合わせをするだけではなかなか点は取れなかったはず。ワークを通り一遍やることが勉強ではなく、どうしてそういう答えになるのかを確実に理解すること、それが勉強です。漢字の読み書きでも、生徒に読ませて苦戦する漢字、漢字テストをやった後、多くの生徒が書けない漢字を出題しました。ただし、漢字テストが終わった後に、どの漢字をどのように間違えるケースが多かったかを国語係に発表させていましたからね。A子はそれをしっかりとメモしていましたが、期末テストの漢字の読み書きはいつも二十点満点でした。合計点数も九十点はいつも超えています。「塾の先生が言っとったよ。先生の期末テストの対策はないから、普段から授業をしっかりと受けときなさいって。」

ある生徒からこんなことを言われました。私にとっては最高の誉め言葉でした。塾には過去に私が作成したテストもストックされていたはず。私は意地でもコピーペーパー&ペーパーをせず、毎回オリジナル問題を作りましたよ。

さあ、明日から期末テスト。塾に行っているからとか、ワークの答え合わせがやってあるからと安心していませんか。勉強とは「できないことをできるようにすること、わからないことをわかるようにすること」ですよ。頑張ってくださいね!